

発表要項

日時 令和8年6月26日(金) 13:20～

研究テーマ

自ら学びを探究し、よりよい社会を創り出す児童の育成

～近松郷土学習や多教科にわたって学びを広げる授業の創造～

| 13:20 | 13:40 | 14:25 | 14:35 | 15:20 | 15:30 | 15:45 | 16:30 |
|-------|-------|-------|------------|------------|-------|-------|-------|
| 受付 | 公開授業 | 児童下校 | 分科会 各教室 | 移動 体育館へ | 全体会 | 講演会 | 閉会 |

《公開授業》

2年1組 澤田 恭志 生活科
『『すき!』をふやそう!!～学校の『すき!』をふやそう～』

4年2組 藤原 明日香 社会科探究
「わたしたちの県」

6年1組 三好 雅也 総合的な学習の時間探究
「未来につなぐ近松さん～伝統文化の世界を広めよう～」

《全体会》

開会挨拶 尼崎市教育長 森山 太嗣
研究の概要 本校研究主任 三好 雅也

《全体講演会》

演題 「探究的な学びとカリキュラム・マネジメント」
講師 四天王寺大学 木原 俊行 教授

はじめに

2025年9月に文部科学省が公表した「論点整理」では、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の実装」が次期学習指導要領に向けた第一の方向性とされています。探究的な学びはその中心に据えられており、特に重要なのは、探究的な学びが「総合的な学習・探究の時間」だけに限定されるものではなく、各教科の日常的な授業においても探究的なプロセスを組み込んでいくことが求められています。

本校においては、『自ら学びを探究し、より良い社会を創り出す児童の育成』のテーマを設定しこれまで総合的な学習の時間（未来<ミラクル>）の中で、探求的な学びについて研究し、実践を深めてきました。学習指導要領で身につけるべき力を『下小トライアングル』という本校独自の身につけさせたい3つの力<前に踏み出す力、知識をつなげる力、考え抜く力>に置き換えて設定し、さらにその力を詳細に分けて、9つの力を位置付けてきました。総合的な学習の時間（未来<ミラクル>）では、子どもたちの前の年度の研究や実態から学年ごとに子どもたちにどの力が足りないか、どの力を身につけさせたいかをまずとらえ、単元計画の中で教科と結びつけたり、単元を入れ替えたりしながら、教科横断的でカリキュラムマネジメントを意識して力を身につけられるように取り組んできました。また、単元の流れを<課題の設定→情報の収集→整理・分析→まとめ・表現>の探究のサイクルを何度も繰り返して行うことで1回目よりも2回目、3回目と繰り返すことで子どもたちは力をつけてきました。令和5年度からは、総合的な学習の時間（未来<ミラクル>）で実践してきたことを生かし、教科の中で探究的な学びができそうな教科や単元をとりあげ、総合的な学習の時間と教科を横断的にして授業を行ったり、教科同士をクロスカリキュラムにしたりして教科の中でいかに探究的な深い学びにできるかどうかを思案し、検討し、実践し、ふりかえり、試行錯誤しながらさらによりよい学びを求めて改善を行ってきました。その折に兵庫県教育委員会主催の令和7年度から令和8年度の2年間での『「主体的・対話的で深い学び」に向けた事業改善研究』の指定を受けました。令和7年度には、5年生が家庭科で「かしこい消費者になろう」と値段や消費地や量などの違う材料をどのように選んで買うのかをシュミレーションをして学習に取り組みました。なぜこの品物を選んだのかを考え、自分や家族が何を大切にしているかを自分たちが気づく中で、今後の消費者としてかしこい買い物ができるように学ぶことができました。このように昨年度は教科における探究の実践や総合的な学習の時間（未来<ミラクル>）の実践の中で見出した成果と課題がありました。今年度はさらなる探究的な学びの単元開発や同じ単元でもより探究に迫れるよう取組を進めているところです。

まだまだ研究においては道半ばではございますが、総合的な学習の時間（未来<ミラクル>）や教科の探究的な学びの授業においてこれまで取り組んできた実践を発表し、皆様方からの温かいご批判・ご批正を賜りますれば幸甚に存じます。

最後になりましたが、四天王寺大学教授 木原 俊行先生はじめ、ご指導いただきました諸先生方、並びに尼崎市教育委員会の皆様にご多大なご示唆、ご教示を賜りましたことを心より御礼申し上げます。

令和8年6月 尼崎市立下坂部小学校長 馬場 直子

1. 研究主題『自ら学びを探究し、よりよい社会を創り出す児童の育成』
 ～近松郷土学習や多教科にわたって学びを広げる授業の創造～

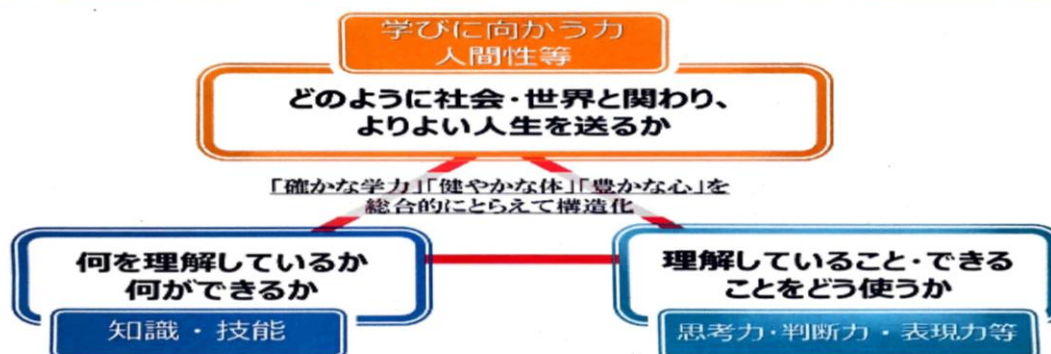
2. 主題の設定について

ここ数年本校では、児童の実態にあわせて目指すべき目標を明確にして取り組んでいく研究推進委員会と、たしかな学力をつけるために取り組んでいく学力向上委員会の2つの柱で研究に取り組んできた。学力向上では、「下小スタンダード」(見通し・めあて→一人学び→ペア・グループトーク→全体交流→振り返り)を基にした授業の中で、対話と共有による児童の思考の変化を明確にすることを目指した。今年度の研究では、下小スタンダード授業や対話と共有を踏襲しつつ、児童に読み書き計算の基礎学力だけではなく、思考力や情報活用力といった能力を育成し、「探究的に学ぶ」児童の育成を目指して取り組んでいきたいと考える。

令和2年度より全面実施された新学習指導要領では、知識・情報・技術をめぐる変化の速さが顕著となり、人工知能を含む情報化やグローバル化といった社会的変化が人間の予測を超えて進展する社会の中で、さらに「生きる力」が必要になると考えられている。この「生きる力」の中で、子どもたち一人ひとりが予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して自らの可能性を發揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていけるように成長していくことが求められている。

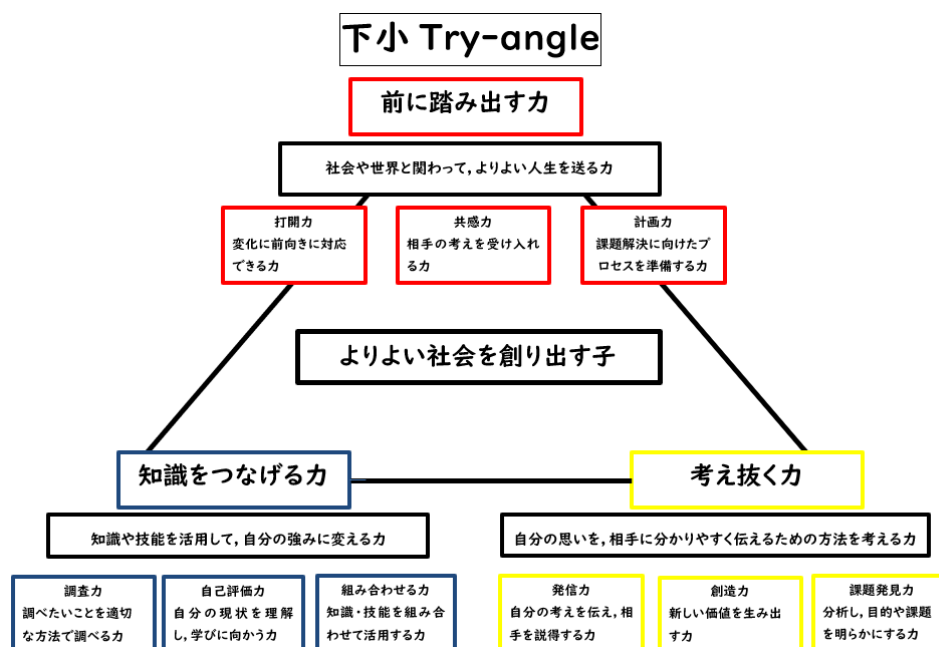
本校では、目指す子どもの姿を「よりよい社会を創り出す児童」と設定し、必要な資質・能力を3つの柱として考えた。その際に、以下の2つの資料を参考にした。





2017. 文部科学省「新しい学習指導要領の考え方」

文部科学省の育成すべき資質・能力の3つの柱をベースに、経済産業省の社会人基礎力を再構成した「下小 Try-angle」（下坂部小学校で育成すべき3つの柱と9つの要素）が以下のものである。



この「下小 Try-angle」（3つの資質・能力と9つの要素）を意識して指導することで、「よりよい社会を創り出す子」を育成していきたい。これは、45分間の授業では叶わないと考えている。そのためには1年間のカリキュラムを見通し、大単元単位で取り組んでいくことが探究的な学びにつながると考えている。児童が学習活動を通して、自分の生き方を考え、自分たちの生活や社会のために活用していくこと、また新たな課題に向き合っていくことが重要である。これは学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学びの授業改善」の「深い学び」につながるものである。

本校の研究では、1つの教科にとられることなく、「多教科にわたって学びを広げる」ことができる単元開発を行っていく。そこでは、児童一人ひとりが探究課題に主体的に向き合い、適切な方法で情報を収集・整理・分析し、自分の考えを表現する学習過程を大切にしていきたい。

以上のような授業を創造することで、下坂部小学校で育成すべき資質・能力を育むことができると考え、この研究主題を設定した。

令和8年度

下坂部小学校で育成すべき資質・能力の3つの柱9つの要素

下小 Try-angle

前に踏み出す力

社会や世界と関わって、よりよい人生を送る力

打開力
変化に前向きに対応できる力

共感力
相手の考えを受け入れる力

計画力
課題解決に向けたプロセスを準備する力

よりよい社会を創り出す子

知識をつなげる力

知識や技能を活用して、自分の強みに変える力

調査力
調べたいことを適切な方法で調べる力

自己評価力
自分の現状を理解し、学びに向かう力

組み合わせる力
知識・技能を組み合わせ活用する力

考え抜く力

自分の思いを、相手に分かりやすく伝えるための方法を考える力

発信力
自分の考えを伝え、相手を説得する力

創造力
新しい価値を生み出す力

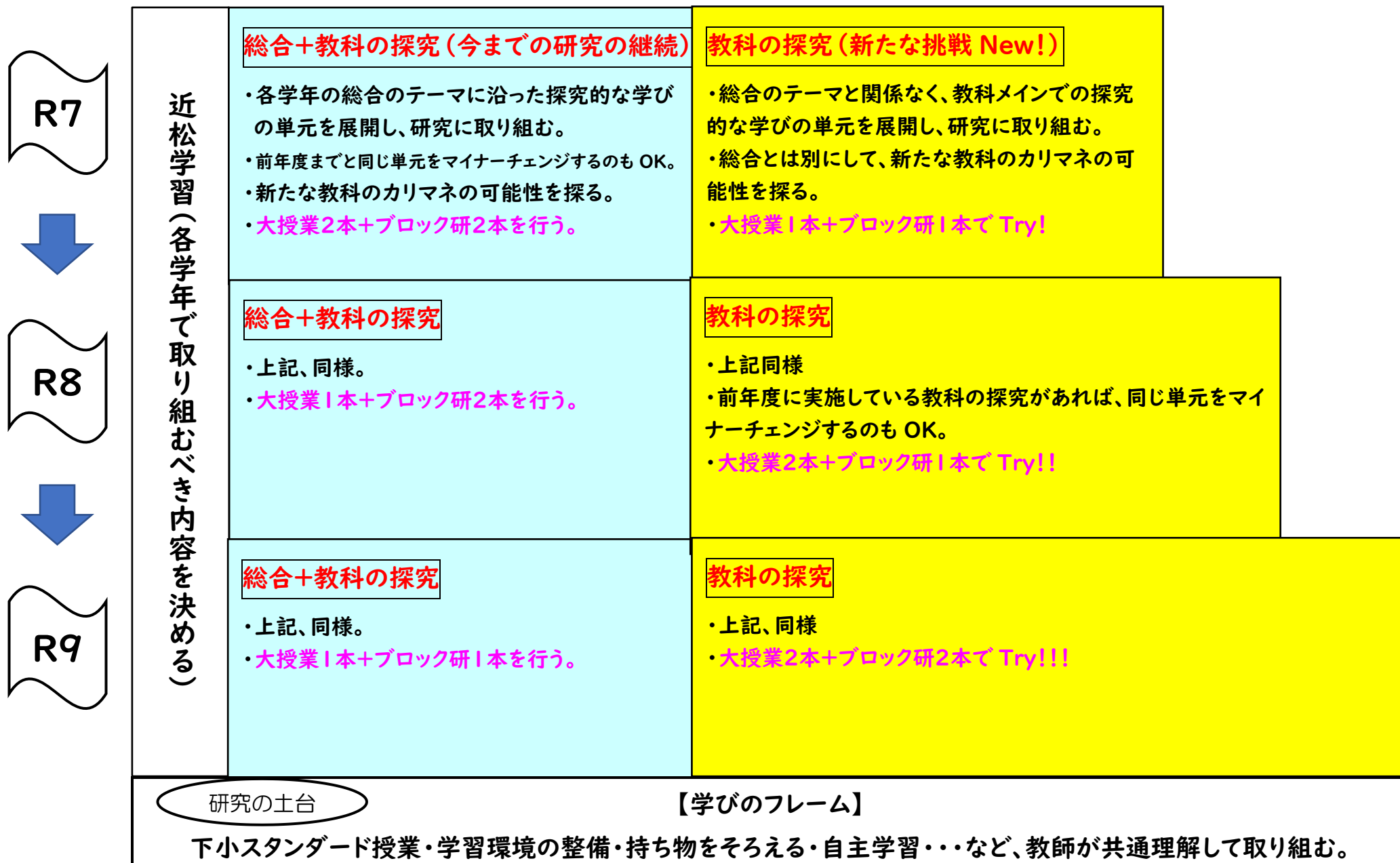
課題発見力
分析し、目的や課題を明らかにする力

R8 下小 Try-angle 分析表

〈低…1～2年生 高…3～6年生〉

| | | | |
|---|---|---|---|
| 前に踏み出す力 | 打開力 | 低：めあてや課題に対してあきらめずに最後までやり抜く力 | |
| | | 高：新しい概念（考え方）や単元に出会ったときに対応できる力 | |
| | 共感力 | 低：友だちの話を聞いたり、力を借りたりして、1人ではできない課題に取り組む力 | ☆自分の考えを伝えることで満足しない。 |
| 高：自分の考えをもった上で、相手や他者の考えの良い所を取り入れて、課題に取り組む力 | | | |
| 計画力 | 低：ラーニングプランを見て、準備する力 | ☆テストや宿題に対しても、自分で計画を立てて勉強することができることよい。 | |
| | 高：単元を計画する力 単元を見通して自分が何をするか考えることができる力 | | |
| 知識をつなげる力 | 調査力 | 低：インタビューや図書の本などで調べたいことを調べる力 | ☆「下小が考える調査力」、「情報活用能力システム表」も参考にする。 異学年、外部講師、保護者、他校、地域人材、ゲストティーチャー |
| | | 高：自分が調べたい情報を、本・インターネットだけでなく、現地調査・インタビュー・アンケートなど様々な方法で調べる力 | |
| | 自己評価力 | 低：自分で「できた!」と思ったあと見直し、何ができて、何ができないかを知る力 | |
| 高：自分ができること、できていないことを知り、それらを修正したり伸ばしたりする力 | | | |
| 組み合わせる力 | 低：他の教科で習ったことを違う教科でも使おうとする力 | ☆他教科で得た知識が使えるという考えを常に持ち、色々な教科や場面で使えるようにする。 | |
| | 高：課題に対して必要な情報を精査し、いくつか情報を組み合わせたり、情報を整理・分析したりして活用する力 | | |
| 考え抜く力 | 発信力 | 低：自分が発表して満足するだけでなく、聞き手が満足・納得しているかを考えて伝える力 | ☆思いはあっても、人に伝える力がないと考えが広まらない。 |
| | | 高：前に立って自信をもって伝える力 根拠をもって言葉を選び、順序立てて伝える力 | |
| | 創造力 | 低：アイデアを生み出す力 | ☆組み合わせる力と大きく関わる。 |
| 高：現状（課題）を打破するために、価値あるアイデアを生み出す力 | | | |
| 課題発見力 | 低：「なぜ?どうして?」から課題を見つける力 疑問に思う力 | ☆自己評価力と大きく関わる。 | |
| | 高：大きな目標（ゴール）に向けて、試行錯誤しながら課題を生み出す力 | | |

下坂部小学校 研究3年計画 イメージ図



GOAL!

《自ら学びを探究し、よりよい社会を創り出す児童の育成》

下小 Try-angle【前に踏み出す力】【知識をつなげる力】【考え抜く力】の資質・能力の育成

《探究的な学び》

- ①【総合的な学習や生活科】を探究的な学びの活動のメインとして、各教科の内容と結び付けながら、学習活動を進めていく。

総合的な学習・生活科

国語科・社会科・算数科・理科・音楽科・図画工作科・家庭科・
体育科・外国語・道徳など、
各教科の本質(見方・考え方・知識・技能)を、**総動員!**

《探究的な学び》

- ②【各教科の学習单元】を探究的な学びの活動のメインとして、各教科の内容と結び付けながら、学習活動を進めていく。

(例) 社会科の「環境」の单元

国語科・算数科・理科・生活科・音楽科・図画工作科・家庭科・
体育科・外国語・道徳・総合(例:調べ学習に充てる)など、
各教科の本質(見方・考え方・知識・技能)を、**総動員!**

START!

《中心となる单元・題材》

地域の特色, 現代的諸課題, 児童たちにつけたい資質・能力等を加味して、
探究的な学びの活動の中心となる单元・題材を決める。